# シラチャ日本人学校の強みを活かした実践

前泰日協会学校シラチャ日本人学校　教諭
北海道小樽市立北陵中学校　教諭　中　村　美奈子

キーワード　タイ、音楽、総合的な学習の時間、小中連携

赴任校の概要（2025年4月現在）
泰日協会学校シラチャ日本人学校
THAI JAPANESE ASSOCIATION SCHOOL SRIRACHA
URL：https://www.tjas.ac.th/srigaiyo
児童生徒数：小学部315人　中学部85人

## 1 はじめに

3年前、縁あってタイにあるシラチャ日本人学校に赴任する機会を頂いた。在外教育施設での教員経験は、今後の教員人生にとって大変価値のある貴重な経験となった。その中での実践の概略を紹介したい。

## 2 小学校での学び

1年目は小学部所属となり小6の2人担任として学級を受け持ち、小5、6の音楽を指導させていただく中で、これまでの小学校のイメージが、良い意味で崩れた。中学校の教員は、生徒が中学校卒業後の進路を意識しながら教科指導や生徒指導に臨むことが多い、しかし、小学校は個の発達段階を考えながら中学校より手厚く丁寧な指導を心がけている印象であった。また、行事等の指導では、完成すること（成功すること）を前提に逆算して細かい指導を徹底的に行っていた。中学校であれば、生徒に考えさせる場面を重視し、完成（成功）だけを追い求めない場面もあるが、その点、小学校の指導は何が何でも形にするという先生方の用意周到ぶりに感動した。私自身が、前任校で小中連携での行事を行う際に感じていた小中の違いは、日本人学校で小学校での指導を経験したからこそ「だからか…」と納得できる。

## 3 シラチャ日本人学校だからこそできる実践

### （1）総合的な学習の時間の実践

2年目の学年複数学級担任時、他府県から派遣されていたもう1人の担任の力を借りながら、総合的な学習の時間の校内研究授業を行った。シラチャ日本人学校が開校された大きな要因である、レムチャバン港の開港と日系企業の進出、日系企業での職業体験訪問を通しての学びを「タイや日本の社会をより良くするための『何か』を開発・提案しよう」という探究学習に結びつけた。この学習の過程では、国際的な視野や思考力を養うことをねらいとし「批判的思考」を意図的に取り入れたワークシート、班活動等を行い、生徒自ら学びを深める力を高めることができた。

レムチャバン港と自動車運搬船

**①レムチャバン港近くの日系企業への職業体験訪問**

- ケンミン食品（タイ米を原料とした食品製造）
- モルテン（競技用ボールの生産、発展途上国での教育支援事業）
- 日本通運（レムチャバン港を中核とした物流）
- 三菱モータース（レムチャバン港に工場を置く自動車製造・販売）

職業体験訪問を通して、それぞれの企業の仕事内容を知ることはもちろんだが、社会貢献の取り組みやタイにある日系企業としてタイの文化や人々を理解し、尊重することの大切さをどの企業の説明からも知ることができた。自分の価値観だけを正しいと押し付けることなく、違いを理解し尊重し合うことの大切さは、普段の生活にも活かされる大切な学びであった。

**②タイや日本の社会をよりよくするための「なにか」を開発・提案しよう**

【生徒が提案したアイディア】一部抜粋

◇タイのトゥクトゥク配車アプリ開発（賃金問題とICT）

◇糖分を控えたタイのお菓子（タイの糖尿病患者の増加対策）

◇地域の祭りでのゴミ拾いイベントの企画立案（地域交流と環境美化）

◇日本の過疎地域にタイ料理キッチンカー出店（ケンミン食品と日本の過疎地域問題）

中1の総合的な学習の時間で実施した、JAL講話、日系企業職場体験訪問、レムチャバン港見学での学びや他教科での学びを活かし、改善したい社会の課題を改善するという探究学習を行った。探究学習の過程では、考えを深めていくために「批判的思考」を取り入れ、生徒が活発に意見し合える工夫をした。「批判的思考」を取り入れたのは、物事をそのまま受け入れるのではなく「なぜ？」「どうして？」と自ら考えられる人に成長し、国際社会で活躍する人材になって欲しいと考えたからである。授業の最後には、企業の方や保護者を招いてプレゼンテーション形式での発表会を行った。企業の方から生徒の考えたアイディアに向けて、「ぜひ、ケンミンのビーフンをキッチンカーで提供したい！とても実現可能な企画だった！」と言っていただき、考えた生徒はとても満足そうに「嬉しい！」と笑顔を浮かべていた。

### (2) 音楽での実践

**①小3と中3での合同リコーダー授業**

小3と中3の合同音楽授業

リコーダーの学習が始まる小3とリコーダーの学習最終学年である中3との合同授業では、小学生が楽しんで学べる活動を中3が班ごとに考え、指導するという活動を行った。中3の生徒は、リコーダークイズ、小3と中3での2重奏、音当てクイズ等々の企画を考えた。小3は、中3の上手なリコーダーに感動し、普段の音楽の授業以上に熱心に参加していたように思う。また、授業の最後に全員で「にじ」を歌った。小3の全身で楽しさを表現しながら歌う姿を見て、普段声を出すことに抵抗を感じている生徒も自然と笑顔で歌っていたのが印象的であった。小3のお礼の手紙を読んだ中3も、何か返事をしたいとクロムブックでお礼動画を撮影し、届けた。合同授業は、小3と中3両者に良い効果をもたらすものであった。

**②小6と中学部での合同合唱授業**

東京交響楽団との合唱演奏に向けて、合唱曲“Believe”の合同練習を行った。日ごろから小中縦割り班

活動や小6と中学部とのレク活動を行っていたこともあり、小中の音楽科で連携して合唱授業を行った。中学校の合唱練習の流れを基本に生徒が主導して練習をしていく中で、小6の児童は、頼もしい中学生の姿に影響を受け、いつもよりも声量が上がっていた。合同授業後は、約1か月の卒業式へ向けて、児童生徒が自ら進んで練習に励み、立派な合唱を披露することができた。合同授業の効果を十分に感じた。

**③卒業合唱作曲と外部団体からの評価**

卒業式へ向けて作曲した曲を代表生徒が演奏し、東京交響楽団の方々に聴いていただき、音楽的アドバイスだけでなく、将来の進路に関わるアドバイスも受けることができた。校内での評価だけではなく、外部のそれも日本トップレベルの音楽家の方々からの評価は、生徒にとって大変価値のある体験となった。作曲した生徒は「プロの方に自分の曲を聴いてもらえて嬉しかった。とっても楽しい時間だった」と目を輝かせて話してくれた。現地の方々や日本国内や世界に目を向けて生徒が評価を受けられる場を設けることは、生徒の成長をより大きくすることに必要不可欠なのではないだろうか。

### (3) シラチャ日本人学校でしかできない学校祭

シラチャ日本人学校でしかできない中学部の学校祭とはどのようなものなのか。学校祭主担当として、学校行事の内容を中学部教員間で検討し、枠組みを決めることは容易ではなかった。最終的には、現地校との交流学習へ向けた英語での開・閉会式、合唱発表、総合的な学習の時間の学習発表、小中連携・タイ語や英語を取り入れた企画、生徒が主となり企画・立案・進行等々、含めたい要素を時間内にひとつにまとめることとした。特に、学校祭実行委員として企画・立案・進行した小中連携謎解き企画は、中学部の生徒が一生懸命アイディアを持ち寄り、準備を重ねて成功することができた。中学生にとって、小中全校約400名を動かす事は大変なことであったと思うが、将来的にあらゆる場面でリーダーシップを発揮して活躍して欲しい。彼らにとっては、本当に貴重な体験であったと思う。

## 4 まとめ

在外教育施設に派遣され、求められることは、日本国内と同等の教育を行うこと、そして、その国の日本人学校でしかできない実践を行うことである。求められるものを日本中から集まった教員集団一丸となり、自分自身の専門性やこれまでの経験を軸に新しい実践を創り出していく作業は楽ではないものの、今振り返れば充実した日々であった。特に、日本人学校の児童生徒は積極的に学習に取り組み、持続的な努力ができるため、高い学習成果を発揮するように思う。シラチャ日本人学校の児童生徒との出会いがあったからこそ、実践ができたことに感謝してもしきれない。3年間の在外教育施設派遣を通して学んだことや経験を現在の在籍校に合った形で活かしていきたいと思う。